★★★～宙の駅～さじアストロパーク通信★★★

星のたより

2026(令和８)年
１２月号
Vol.387



☆今月の豆知識☆　しゅうき的に観察できる一番有名な彗星は、やっぱりハレー彗星」かな？　ハレーは過去の彗星の記録を調べて、およそ 75 年ごとに現れている彗星のあることに気づいたんだ。彼の予測が正しければ、次は 1758 年頃に彗星が見られるはずということで、当時の天文学者たちがこぞって探したんだって。結局アマチュア天文家のパリッチュが 1758 年 12 月 25 日に発見したんだよ。クリスマスの夜なんて素敵だね。

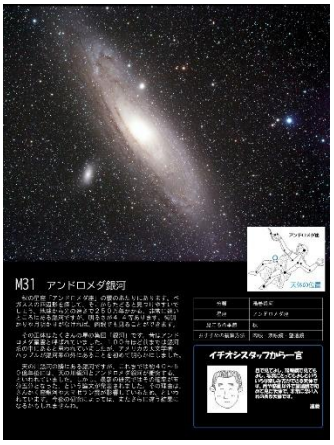
イベント情報

第 30 回クリスマス謝恩コンサート ～Final～

日　時：12 月 13 日(日) 14：00～16：00
参加費：無料　　定　員：80 人（予約が必要です）
出　演：コーラスてるてる(地元コーラスグループ)
　　アストロシンガーズ(男声アカペラコーラス・ピアノ)先着でプレゼントあり！



地元の男女混声コーラスグループ「コーラスてるてる」さんと、京都の大学合唱団出身のメンバーが集まって 1995年に結成したアカペラコーラスグループ「アストロシンガーズ」さんの楽しく、心温まるコンサートです。今回が最後の開催となります。みなさんも一緒に盛大にフィナーレを飾りましょう！



M31
（アンドロメダ銀河）

☆期間展示☆

さじアストロパークコレクションシリーズ②「メシエ天体」
　日時：6月 17 日(水)～12 月6日(日)まで
　場所：さじアストロパーク

第 13 回アストロ宇宙写真展
　日時：12 月 16 日(水)～2027 年3月 14 日(日)まで
　場所：さじアストロパーク
　さじアストロパーク職員が撮影した星の写真を解説付きで展示します。

☆出前観察会☆

スーパームーンを見よう

日時：12 月 24 日(木)18：00～19：00

場所：イオンモール鳥取北
　　立体駐車場３F　D エリア
定員：なし。直接会場へお越しください。
最近話題の「スーパームーン」を、望遠鏡で観察します。天候不良時は中止します。

★★★今月の開館情報★★★

2026年12月　開館時間 10：00～17：15（土～21：00）　夜間予約 19：00～21：00 観察会20：00～

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
29	30	1 休	2	3	4	5
6	7 休	8 休	9	10	11	12
13 特別イベント	14 休	15 休	16	17	18	19
20	21 休	22 休	23	24	25	26
27 観察会なし	28 休	29 休	30 休	31 休	1	2
3	4	今月のイチオシ	ふたご座流星群			

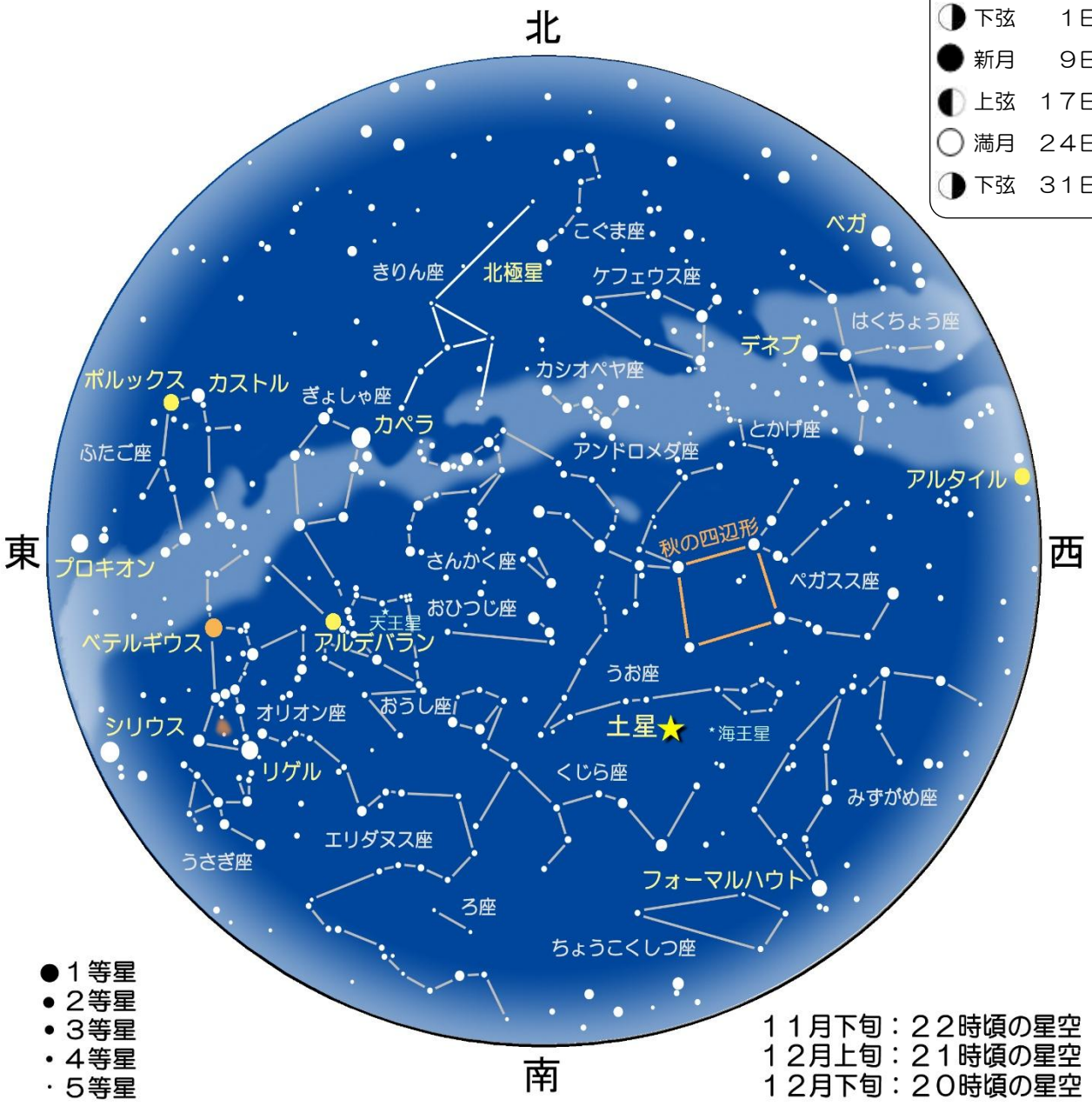
夜の観察会 やってます　夜の観察会 予約OK　※イベント・天候などにより変更することがあります。最新情報はHPをチェック

さじアストロパーク・佐治天文台
〒689-1312　鳥取市佐治町高山 1071-1
TEL　0858-89-1011　　FAX　0858-88-0103
e-mail　sj-astro@city.tottori.lg.jp

2026年12月の星空

今月の月の暦

下弦	１日
新月	９日
上弦	１７日
満月	２４日
下弦	３１日



☆12月は「冬至」があり、一年の中で太陽が最も低い場所を通ります。夜の時間が長いので星空を楽しむ時間も長くなります。寒さが厳しくなっていますので暖かい服装で星空巡りをしましょう。

☆星空は、西の空が秋の星たち、東の空が冬の星たちとなりました。明るく見えている「土星」を除けば、秋の星空は明るい星が少ないですね。その中で「秋の四辺形」を見つけてみましょう。秋の四辺形から、アンドロメダ座、カシオペヤ座とたどることができます。

☆東の空には「オリオン座」が昇ってきました。２つの１等星「ベテルギウス」「リゲル」と、その間の三ツ星が見つけやすいので、星座の中でもよく目立つおなじみの星座です。冬の星空には１等星がたくさんありますので、星図をもとに星空巡りをしてみましょう。

プラネタリウムや観察会の時間、休館日、宿泊の予約など最新情報は、ホームページ＆YouTube 各種SNS（X、Facebook、インスタ）をチェック☞☞☞☞☞☞☞☞☞☞

発行：さじアストロパーク　鳥取市佐治町高山1071-1

12月 夜間観望会（天体観察会） 103cm 大型望遠鏡で観察

下の表の左側はテーマ天体。テーマ天体以外に観察時間内にいろいろな見ごろ天体を観察します。気になる天体があればリクエストしてください。

星の集まり すばる	５日(土)、１２日(土)
ぎょしゃ座の一等星 カペラ	１９日(土)、２６日(土)
観望会で月がよく見える	１７日(水)～２０日(日)
観望会で満天の星が楽しめる	２日(水)～６日(日)、９日(水)～１３日(日)



こんな天体が見ごろです　ー　土星、アンドロメダ銀河 ★★★★★★★★★

土星

種　類：惑星
星　座：くじら座の所
明るさ：０．３等
距　離：　－

環のある惑星の土星、太陽系の惑星の中では一番人気です。２０２５年に土星の環の消失が起こりましたが、再び環が見えるようになってきました。環のある土星を観察してください。





M31

種　類：銀河
星　座：アンドロメダ座
明るさ：４．４等
距　離：250万光年



銀河の中では一番のおススメ「Ｍ３１」です。
アンドロメダ座にあるので「アンドロメダ銀河」とも呼ばれています。星がたくさん見えるところでは肉眼でも存在がわかります。観察には双眼鏡や低倍率の望遠鏡での観察がおススメです。
私たちの天の川銀河から２５０万光年離れた場所にあります。

M33

種　類：銀河
星　座：さんかく座
明るさ：６．３等
距　離：296 万光年

アンドロメダ座の β 星を挟んでＭ３１（アンドロメダ銀河）と向い合せにあるＭ３３です。大型の銀河で満月くらいの広がりがあります。低倍率の望遠鏡で見ると広がりを感じる事ができます。アンドロメダ銀河と比較しながら見ても良いかもしれません。この銀河のおかげで「さんかく座」という星座の存在がよく知られています。

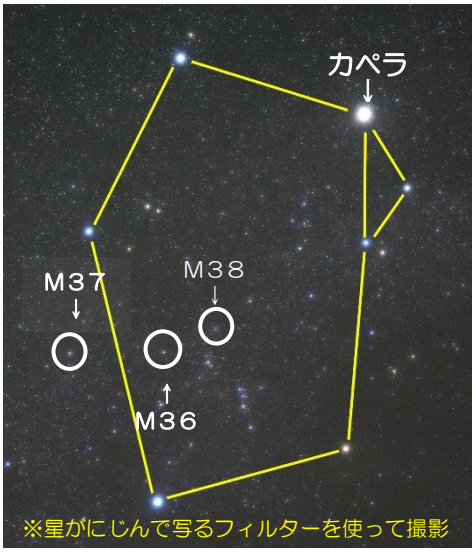


今月のイチオシ星座

ぎょしゃ座

見つけ方

１２月の夜８時～９時ころ東の空（少し北より）を高度６０度くらい見上げ、明るい星を見つけてください。これが「カペラ（１等星）」で、そこから変形した将棋の駒の形をした五角形を作ります。これがぎょしゃ座です。（※オリオン座から北側を見ていっても探せます。）天の川が通っているので星の数も多くにぎやかな星座です。ぜひ星がたくさん見えるところで観察してください。



※星がにじんで写るフィルターを使って撮影

星座の由来・神話

ギリシャ神話ではアテネの王エレクトニオスと言われています。生まれつき足が不自由でしたが、それをカバーするため４頭立ての戦車を作り戦場を駆け巡りました。そのため星座となったとき馭者座（ぎょしゃ座）と呼ばれるようになりました。１等星カペラはメスヤギの事で、星座絵はメスヤギを背負うやさしい王様が描かれています。


アンティーク星図に描かれたぎょしゃ座

主な天体

★カペラ（恒星）

ぎょしゃ座の１等星のカペラです。厳密にいうと０．１等ですので１等星の中では明るい方になります。地球から４３光年の所にありますので比較的地球に近い所にあります。

★散開星団「Ｍ３６」「Ｍ３７」「Ｍ３８」

星がパラパラっと散らばって集まって見えるところから「散開星団」と呼ばれています。ぎょしゃ座の内側からＭ３８（星数およそ１００個）、Ｍ３６（星数およそ６０個）、Ｍ３７（星数およそ１５０個）と並んで見えます。望遠鏡で拡大して見るのもよいですが、双眼鏡などで天の川をたどりながら３つが並んでいる姿を見るのもおススメです。







プラネタリウムのおしらせ ★★★★★★★★★★★★★★★★

デジタル番組（ばんぐみ）「星と出会う日々～本田実物語～」

投影期間は令和８年１１月１８日(水)～令和９年３月１４日(日)



公開天文台100周年に合わせて日本国内最初の公開天文台、倉敷天文台で活躍された本田 実 さん（鳥取県出身）の生涯をふりかえります。

公開天文台 100 周年記念事業公認企画

投影開始時刻	平　日	10：30 ～	なし	14：00 ～	16：00 ～
	土・日・祝	10：30 ～	12：30 ～	14：00 ～	16：00 ～
投影時間（約４５分間）	前半（約２０分）：専門職員による今夜の星空生解説 後半（約２３分）：デジタル番組「星と出会う日々～本田実物語～」				
プラネタリウム観覧料	一般(高校生以上)３００円、小中学生２００円（入館料別）				

※イベントや団体利用などで開始時刻が変わる場合があります。
最新情報は HP をご確認ください。

宇宙ふしぎ探検

「ふたご座流星群を見よう」



日　時：2026年１２月１３日(日)　１９：３０～２１：００
参加費：一般(高校生以上)６００円、小人(小 中学生)２００円（入館料・観望料として）
定　員：４０人（事前予約が必要）
その他：天候不良時は、プラネタリウム投影を行います

毎年恒例の「ふたご座流星群」を観察します。今年は細い月がありますが、ほぼ影響はなく、街明かりがない、さじアストロパークでは満天の星の下、たくさんの流れ星を見るチャンスです。
もしかしたら１時間に30個くらいの流れ星が見られるかもしれません。

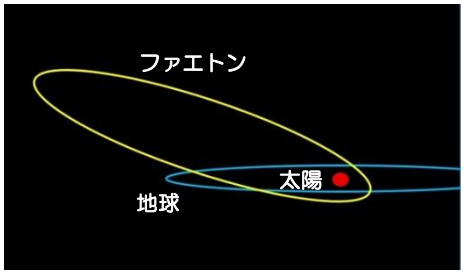
ふたご座流星群の歴史



ふたご座流星群は、歴史が比較的浅い流星群です。最初にこの群の存在が指摘されたのは１８６２年です。最初は出現数は多くありませんでした。１９８３年に赤外線衛星「IRAS」の観測画像から、周期1.43年の小惑星「ファエトン」が発見されました。その軌道が、ふたご座流星群の軌道に合致していることから、今ではファエトンが母天体であると確定しています。

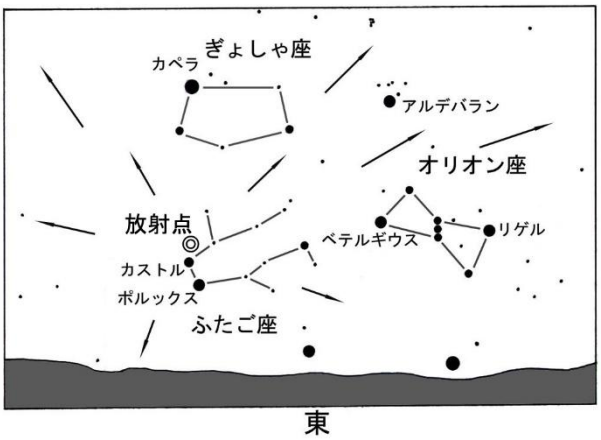
ファエトンってどんな星？

ファエトンは直径６kmほどの小惑星です。彗星に似た特異な軌道を持つ小惑星で、太陽に近づく時期に定期的に物質を放出しています。近日点(太陽に最接近する地点)を通過する際、彗星のように明るくなり、尾を形成する活動が観測されています。宇宙航空研究開発機構(JAXA)などが探査機「DESTINY+」による近接観測を計画しています。2028年打ち上げ予定で、2030年にファエトンをフライバイする計画で調整が進められています。



観察ポイント

今年は12月14日23時頃極大を迎えます。19時30分ころにはふたご座は昇ってきていますので、早い時間から観察することができます。細い月がありますが、21時までに沈むので影響はないでしょう。寒い時期ですので、防寒対策はしっかりと、安全な場所で、楽な姿勢で観察してください。極大後は急激に流星数が減る傾向があります。



流れ星の観察方法は 2026 年 8月号（Vol.383）で詳しく紹介しているのでチェックしておきましょう☆

気軽に星空を
たのしもう！

キラットちゃんの耳より情報コーナー★「アンドロメダ銀河を撮影してみよう！」



スマートフォンで星空が撮れる時代、運が良いと星雲や星団、銀河まで撮影できることも！秋の撮影におすすめの天体を紹介します。詳しい撮影方法やコツは「星のたより381 号、382 号」をチェックしてみましょう☆

アンドロメダ銀河って？ ★★★★★★★

私たちが暮らしている「太陽系」は、さらに大きな星の集団「天の川銀河」の中にあります。その外にも同じような「銀河」がたくさんあり、「アンドロメダ銀河」もその一つ。「M31」と呼ばれることもあります。名前のとおりアンドロメダ座にあるので秋から冬の時期が見ごろ。光の速さで 250 万年かかるほど遠くにありますが、よく晴れた暗い空ではぼんやりとした楕円形の光を肉眼で見ることができます。



秋は北東、冬は北～真上を狙え！ ★★★★★★★★★★★★



アンドロメダ銀河はどこにある？

「アンドロメダ座」の 4 つ並ぶ明るい星と「カシオペヤ座」の間を 3 等分して「アンドロメダ座」から 1 /3 くらいのところにあります。うまく見つけられない時は「カシオペヤ座」の W の形の山が 2 つある方を広く撮影してみましょう。

実際に撮影した写真がこちら！

2026 年 9 月 16 日 22：51 に撮影した北東の空です。カシオペヤ座と 4 つ並んだアンドロメダ座の星の間にアンドロメダ銀河がバッチリ写っています。スマートフォンの機種にもよりますが意外と写るのでぜひ挑戦してみましょう。ほかにも「すばる」や「ペルセウス座の二重星団」など色々写っています。

写真を拡大して見てみるとこんな感じ。図鑑などの天体写真と見比べてみましょう！







アストロ活動報告（かつどうほうこく）

１０月にあった日々の出来事やちょっとした事件、イベントの様子をお伝えします。



2027 カレンダー「太陽･月･星のこよみ」　2026 年 10 月 7 日(水)

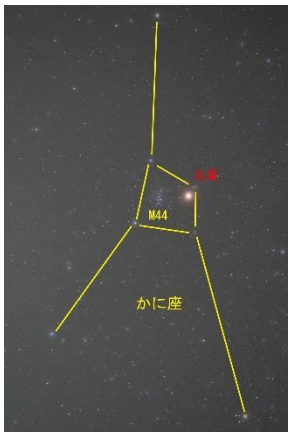
恒例のカレンダー「太陽･月･星のこよみ」の販売を始めました。在庫に限りがありますので、ご購入はお早めに！

https://www.city.tottori.lg.jp/site/saji-tenmon/50265.html

すばる　2026 年 10 月 9 日(金)

夜 9 時を過ぎると、東の空から星の集まり「すばる」が昇ってくるようになりました。星がきれいなところなら、目でぼんやりとしたかたまりのように見えます。





画像はＸなどで公開しています →
（10 月 20 日早朝に打ち上げられた探査機「MMX」を鳥取から撮影に挑戦した動画も見られます）

火星がプレセペ星団の中を通過　2026 年 10 月 9 日(金)

明け方の空で、火星がかに座にある星の集まり「プレセペ星団」の中を通過する現象が見られました。赤い火星と星の集まりのコラボレーションは双眼鏡で楽しめました。



アストロ宇宙講演会　2026 年 10 月 12 日(月)

講師の中村栄三先生（岡山大学名誉教授）をお迎えし、講演「サンプルリターンがひらく夢」を行いました。約 50 名の参加があり、探査機「はやぶさ２」の粒子分析のお話など、リアルにご説明いただきました。その後は宇宙少年団の子どもたちとの交流も行いました。

愛子さまがご来館　2026 年 10 月 19 日(月)

「ぼうさいこくたい」に合わせ来県された愛子さまが佐治町の視察に合わせ、ご来館され、館内展示をご覧いただくとともに、103 ㎝反射望遠鏡で昼の星観察にもチャレンジいただきました！

当日のニュース映像はこちら ⇒



珍しい現象 V8056 Sgr　2026 年 10 月 22 日(木)

10 月 12 日、日本人 3 人により発見されたいて座の天体は、最後のヘリウム殻フラッシュを起こしている白色矮星という珍しい現象であることがわかりました。

オリオン座流星群　2026 年 10 月 22 日(木)･23 日(金)

22 日 19 時から 23 日 6 時の間に 31 個の流星が映っており、最初のオリオン座流星群の流れ星が 23 時 33 分過ぎに現れ、計 14 個のオリオン座流星群が確認できました。

映像はこちら ⇒